

福井県議会議員

# 福野だいすけ 県政レポート 令和6年秋季版



【発行者】  
福井県議会議員 福野大輔

〒918-8153 福井県福井市安保町8-21-1 携帯番号：090-5174-6722  
E-mail : d-fukuno@fukuikengikai.jp 公式サイト : fukuno-daisuke.com



## ごあいさつ

10月27日に衆議院議員総選挙の投開票が行われました。「政治とカネ」が争点の一つになりましたが、それ以外の重要政策はあまり与野党間で充分議論されなかったように感じました。今回当選された稻田議員をはじめ県内選出の国会議員の皆様には国政はもとより、福井県政課題でもある北陸新幹線小浜・京都ルート早期認可着工および原子力行政にもご尽力いただきたいと思います。私も県政を担う一人として微力ながらこれら諸課題に取り組んでまいります。

## 令和6年6月議会 福野だいすけ 一般質問

6月議会の一般質問の様子は、  
福井県議会の公式YouTubeで  
視聴できます



### ○県民の運動習慣について

#### 【福野の質問】

「福井県民の健康・栄養の現状」令和4年度県民健康調査等報告によると、1週間の内、一日も運動時間が無い県民は56.4%にものぼる。また県民の1日における平均歩数は厚労省が1万歩を推奨する中5744歩しかないのが現状である。社会保障費に占める医療や介護にかかる費用が増えているが、抑制するためにも県民の運動習慣向上させ予防効果を高めていくことが必要である。

あらゆる手段を考えながら県民全体の運動参加を促していくかなければならない。県民の運動習慣についての現状認識と、県民に運動習慣をつけさせるための取り組みについてどう考えるか。

#### 【健康福祉部長答弁】

新型コロナ感染症の影響により、県民の運動機会の減少もあり、令和4年度県民健康栄養調査における平均歩数は、男性が計画目標の8700歩に対して6821歩、女性が目標に7800歩に対して5398歩と、いずれも達成できていない状況である。これを踏まえ、今年度からの新たな第5次健康づくり応援計画では、運動週間の定着に向け、歩行最重点要素に位置づけている。

運動による健康づくりの取組として、歩くきっかけづくりのため、9月から3か月間のウォーキングキャンペーンを実施する。現状よりプラス1000歩を目安に、歩数目標を設定した上で、ウォーキングを持続できるようアプリによる歩行、歩数管理を行い、達成者にはインセンティブとして、はぴコインを進呈する。

このほか、働き盛り世代対象には、スニーカービズなどによる健康づくり実践事業所の拡大、また高齢者世代にはフレイル予防教室への参加促進などによって、県民の運動週間の定着を図る。

#### ■福野のコメント■

6月議会では紙面の都合により割愛しましたがふくい桜マラソンについても何点か質問いたしました。私は健康づくりの一環で来年のふくい桜マラソンのフルマラソンの部にエントリーしました。来春の本番に向けてランニング練習を始めていますが体調が良くなっています。県民の皆様もできる範囲からウォーキングやランニングなど運動を一緒に始めてみませんか？

# ○足羽川の桜並木について

## 【福野の質問】

足羽川の桜並木は、昭和27年の福井復興博覧会を機に災害復興のシンボルとして、市民から集めた淨財によって植樹された。ただ最近のマスコミ報道で皆さんご存じの通り植樹から70年以上が経過し、毎年台風や積雪によって倒木や枝折れが発生するなど、衰退が目立ち始めている。

しかしこの堤防に植えられている桜は、倒木などがあったとしても、堤防に関する法の規制により同じ場所に新たに植えることができない。このまま桜が減っていくと、いずれ足羽川の桜並木は無くなってしまう。

そこで桜を長寿命化させ次世代へとつないでいくために、「強剪定」という処置が必要になる。

県は、経済会や福井市とともに県都グランドデザインに基づき足羽川周辺の賑わい創出を進めているところだが、桜も春の賑わい創出の大きな要素なので、桜を守る福井市の取組みのサポートをしていただきたいと思う。例えば、東京事務所、大阪事務所、名古屋事務所、京都事務所など県外の福井県事務所に協力いただき、県外の企業様に福井市への寄付や企業版ふるさと納税を募ることも考えられる。県都のまちづくりの観点から、福井市と連携して県内外の企業に桜を守るために支援を呼び掛けるなど、足羽川沿いの桜を守る取組みを行ってはいかがかと考えるが、知事の考えは。

## 【杉本知事の答弁】

令和4年に策定した県都グランドデザインにおいては、町の自然を最大限に生かす環境をつくり、まちなか周遊を拡大することを目標に掲げている。私も足羽川の桜並木は毎年のように行っており、本当に全国を転々と生活して全国各地に桜の名所があるけれども、桜の名所100選に選ばれるだけあって、本当に丸岡城の桜と併せてすばらしい桜並木だというふうに認識をしている。また、朝夕の通勤のときに私は、桜通りを歩いているけれども、確かに何十年か経っていて樹勢がちょっと衰えているなど感じるものもある。

そういうものを強剪定していく取り組みを福井市の方でしているが、そういった方向性ができるだけ応援をしていきたいと考えている。県としても、例えば福井城址春祭りを、同じような時期にやっているので、なんらかのPR活動をしたり、グランドデザインニュースレターというものもあるので掲載させていただいたり、また、福井県外の事務所、東京事務所等で、福井県の出身者の皆さんなどに対して、ふるさと納税の呼びかけをする、こういったことで精いっぱい福井市の応援をさせていただきたいと考えている。

## 【福野の質問】

一点提案する。ふくい桜マラソンにおいては足羽川の桜並木だけではなく、さくら通りや丸岡城の桜の名所を通るが、ふくい桜マラソンのエントリー料の一部をマラソンコース上の桜を守る活動として使う仕組みにできないか。ふくい桜マラソンのエントリー料は14,000円だが、収支で黒字になった場合に翌年に縁越金ではなく桜を守るために使うとか、もしくはエントリー料を数百円値上げをして、値上げした分は桜を守るための費用と明示したエントリー料金体系にすれば県外から来るランナーさん達からも理解を得ながら桜を守る活動に繋げられるのではないかと思う。ふくい桜マラソンにおいて、桜を守るためにエントリー料などを活用することについて県の考えは。

## 【交流文化部長の答弁】

桜はふくい桜マラソンのシンボルでもあり、コースの大きな楽しみ、見所の一つでもあることから、桜を守る活動は大変意義深いものと考えている。一方で、近年把握しているだけでも7つの大規模フルマラソン大会で定員割れが起きるなど、全国的に市民マラソン大会を取り巻く環境は厳しくなってきている。

その要因の1つとして、人件費や資材費等の高騰による参加料の値上げが挙げられており、ふくい桜マラソンにおいても、まだ1回目実施できたばかりで、決して楽観できる状況ではないと考えている。

このため第2回大会において参加料を据え置いたまま、ゼッケン等を全員に事前送付し、前日受付を廃止するなどランナーの利便性向上を図りつつ、経費削減に努めているところで、桜を守る活動については、例えば大会関連イベントの会場で募金箱の設置に協力するなど可能なことから対応していきたいと考えている。

# ○横断歩道のカラー化について

## 【福野の質問】

JAFは2023年に信号機のない横断歩道での歩行者横断時における車の一時停止状況全国調査を行った。歩行者が渡ろうとしている場面で一時停止した車の割合は全国平均が45.1%となる中、福井県は26.7%という結果であった。全国平均も決して高い数字ではないが、福井県はさらに低い一時停止率ということで残念に思う。

そのような中、横断歩道のカラー化は自動車からの視認性をあげ、一時停止を促すのに有効である。隣県の滋賀県警に横断歩道のカラー化について問い合わせを行ったところ、滋賀県警としては予算をもたず、警察と道路管理者である県土木事務所や各市町の道路課と安全点検をした際に、警察から道路管理者にお願いする形で道路管理者側の予算でカラー化を進めているとのことであった。滋賀県では結果として多くの市町にも理解を得ながら多くの横断歩道のカラー化が進んだとのことである。

福井県内でも越前町道口のT字路や越前市府中のT字路など道路管理者側で塗装した事例も数は少ないがある。福井県においては今年度は県全域で11か所のカラー化を行う。県外の事例と比較してまだまだ少なく、今後願わくば、交通安全意識向上のためにもさらなる横断歩道カラー化の拡充を期待するが県警の考えは。

## 【警察本部長の答弁】

県警察では、交通事故の分析結果や地域住民からの取締り要望等を踏まえて設定した取締り重点横断歩道のうち、11か所を今年度においてカラー化する予定である。横断歩道のカラー化については、視認性が向上することにより、ひいては一時停止率の改善に一定の効果があるものと考えているが、施工前後の一時停止率を調査して効果を検証する予定である。県警察としては、まずその効果検証の結果を見て判断することとしたいと考えている。

## 【福野の質問】

県外の事例を見ると、道路管理者側が予算を持って塗装する場合も多い。県内各土木事務所および県内各市町の協力を得て、速やかに信号機のない横断歩道のカラー化の拡充を進めてはどうか。

## 【警察本部長の答弁】

今回は県警察の予算で施工するものであるが、知事部局において施行前後の一時停止率を調査して効果を検証する予定である。県警察としては、その結果を踏まえて、必要に応じて県や各市町の道路管理者とも連携の上で適切に対応してまいりたい。

## 【福野の質問】

越前町や越前市では横断歩道のカラー化では路面を赤色で塗装している。今回県警で塗装する横断歩道は緑色とのことである。道路を塗装する色がばらけてしまうのは景観的には良くないようにも思う。今後、県警と道路管理者で道路塗装する場合の色を統一する方が良いと思うが県警の考えは。

## 【警察本部長の答弁】

県警察では、カラー化する横断歩道の色については特段の定めはないところであり、警察庁が示す指針において通学路における路側帯では原則として緑色、緑色系とすることとされており、そのことに準じて緑色としたところである。他方で、現状、道路管理者において赤色で舗装された横断歩道も存在することは承知している。これらカラー化については、まちづくり等と整合性を図りまして、周辺環境との調和に留意する必要があることから、その点も踏まえ、拡充を図る場合は道路管理者と連携の上で適切に対応してまいりたいと考える。



## ○集落営農の担い手不足について

### 【福野の質問】

現在、色々な産業・職種で人手不足が叫ばれている。農業も人手不足の産業の一つであり集落営農の担い手についても人手不足の波がやってきている。後継者がいない農地を守るためにも有益である集落営農であるが、以前は60歳まで会社などで勤めていた方が退職を機に集落営農で従事するパターンが多くなったが、近年は定年引き上げや再雇用制度などで会社などに残るパターンが多く、集落営農に従事しないケースがとても増えており、集落営農組織の維持に不安を覚える、何らかの対策を考えて欲しいという声を私自身ここ数か月で複数件ご意見として頂戴した。

そこで問うが、本県として、集落営農の担い手確保について考えは。また、これから福井県の水田農業の担い手の育成方針と、今後の支援策についてどのように考えていくか。

### 【農林水産部長の答弁】

県では集落営農組織の担い手確保対策としまして、集落内外からの人材確保やオペレーターの育成、稼げる経営の転換などを進めている。具体的には水稻農家で、お試しで農業研修を行うお試し就農事業による県内外からの就農希望者と農業法人とのマッチング、越前若狭田んぼ道場でのオペレーターの機械操作の実習や栽培管理研修、スマート農業の導入によります効率化、省力化の推進、中小企業診断士や税理士など、専門家の派遣による労務管理など、経営面の課題解決、こういったことを実施しているところである。

さらに、JAの営農指導員と県の普及指導員がペアになり、集落営農救援隊を結成し、集落営農組織に対し、収益向上に向けた栽培技術とか法人化など具体的な改善計画を提案する新たな取組を7月からスタートさせる予定である。こういった様々な取組により、集落営農に新たな担い手が参画し、組織を継承していくように支援していく。

水田農業の担い手の育成方針と今後の支援策に関しては、3月に策定した新たな農業基本計画では4K農業、希望あふれる、かつこいい、稼げる、感動の農業の展開を目指して、担い手の育成に取り組んでいくこととしている。先ほど申し上げた集落営農の担い手確保対策に加え、今年度から経営支援に特化した部署を農業系アクセラレーションセンターと申しますが、農業試験場に新設し、福井の農業を牽引する売上げ1億円超えのリーディングファームを育成していく。

さらに、多様な担い手の活躍を後押しするため、トイレや更衣室などの整備支援による女性が農業にチャレンジできる環境づくり、今年度から開始した試行的に農福連携に取り組む農業者を支援するお試し農福事業による障がい者の就労の促進、県の農業会議やJAと連携した外国人材の受け入れ体制の整備などを確実に実行し、次世代の担い手育成につなげてまいりたいと考えている。

## 令和6年9月議会 福野だいすけ 一般質問

9月議会の一般質問の様子は、福井県議会の公式YouTubeで視聴できます



## ○東京一極集中是正について

### 【福野の質問】

8月1日、2日に全国知事会議が福井市で行われた。その中で人口減少の克服に向けた緊急宣言を決議した。宣言には地域の創意工夫など「総力を挙げて人口減少への構造的潮流を食い止める」と明記し、国には人口戦略を総合的に推進する組織、体制を整えるよう求めたところである。全国知事会議では小池都知事が緊急宣言に難色を示したそうだが、46道府県ではなく47都道府県知事がしっかりと結束して人口減少問題に向かっていただくことこそ政府に対する全国知事会の大きな力になると思う。そこで問うが今後の東京一極集中は正に関して知事の考えは。東京都にとっては利益相反する面があるが、どのように東京都にも協力してもらえるか考えがあればあわせて問う。

### 【杉本知事の答弁】

先般の全国知事会議、ここでは東京一極集中の是正であるとか、人口減少問題、こういったものを正面から取り上げて、全国の知事が、議論をしてきた。大きく言えば、やはり国民的な議論、国民的な運動に結びつけるような議論がここでスタートできたということの意義は、非常に大きいというふうに思っている。

ただ、人口減少の課題というのは、本質の部分というのは、例えば大学の定員の25%、大企業の52%が東京にある。結果として若い人たちが東京に集められ、住まざるを得ない社会構造になっているということが非常に大きな課題だと認識をしている。

その結果として、税収も多くが東京に集まり、地方にお金が回ってこない。こういった実体経済におけるマイナス効果も大きく出ていると感じている。人口が東京に密集するということのデメリットとしては、例えば災害のときのリスクが非常に大きくなることがあるし、また収入から生活費、さらには通勤時間なんかで失われるような時間コストなども考えると、東京は実は、生活水準というのは全国最低なわけである。こういったところもよく国民に理解される必要がある。

一方で、東京と地方が共存共栄しなくちゃいけない、こういうことについては全ての知事が認識を一致しているわけである。ただし、東京から人を地方に移すとか、税収を減らすとなると、これはどうしても話合いだけでは解決しないというところも出てくるわけで、ここは国の役割は大きいというふうに認識をしている。国においてはそうした社会構造をどう変えていくのか、こういった議論を、これから本腰を入れて行っていただく必要があると考えており、こういったことを全国知事会なども含めながら、国に強く訴えていきたいと考えている。

### 【福野の質問】

福井県では国立研究開発法人である産総研北陸デジタルものづくりセンターが昨年設立したわけですが、第2次安倍政権が打ち出した東京一極集中の是正として更なる省庁や政府機関の移転を国や都道府県が連携して推し進めていくべきと考える。先般行われた自民党総裁選において有力候補の一人が共同通信のインタビューに防災の観点から首都機能移転の議論を進めたいと言及しており、首都機能移転に関しても防災や東京一極集中を是正する観点からぜひ今後の全国知事会等などでも取り上げていただきたいテーマであると思う。国会などの首都機能移転や、中央省庁や政府機関の本県を含む地方への更なる移転について知事の考えは。

### 【杉本知事の答弁】

首都機能移転については、平成28年度に、文化庁を京都に移転するということで、中央省庁の7機関と、研修とか研究機関など23機関を地方に移転させるということが決定されたというところであるが、やはり東京一極集中、人口減少、こういった社会の動きを見ていると、不十分と言わざるを得ないというふうに考えている。こうした政府機関の移転というのは、人材を地方に移動させるということもあるし、また、万一の首都直下のいろんな災害が起るときに首都機能のバックアップ機能というものがないと、一気に日本全体が崩壊してしまうということを避けるためにも重要だというふうに認識をしている。

そういうこともあり、福井県においては、日本一幸福な子育て県、ふく育県ということで、全国の子育て応援をリードしているということを自認させていただいているけれども、といった意味から、子ども家庭庁のサテライトオフィスを福井に置いて、一緒にモデル的な事業を行っていかないかというような提案もしている。これからも、国家戦略として国が主体的になって政府の機関を地方に移転する、こういったことに全力を入れていただきたい。全国知事会とも連携をしながら強く求めてまいりたい。



# ○公共交通機関について(ふくい高校生県議会・足羽高校)

## 【福野の質問】

8月9日に令和6年度のふくい高校生県議会が開催された。私は足羽高校のチーム担当議員を務めさせていただいた。足羽高校では福井県の公共交通機関の利便性向上をテーマにして模擬委員会や提言書作成を行った。今回私はその時に生徒さんから出た意見や、私なりに新たに調べたり感じたことを加えて質問を行う。

本年3月に誕生したハピラインにおいては、福井鉄道やえちぜん鉄道のような無料のパーク&ライド駐車場があまり整備されていない。月極の駐車場が整備されている駅はあるようだが、一時利用客ができる駐車場は一部の駅にしかありません。本県のハピライン駅におけるパーク&ライド駐車場整備についての考えは。

## 【未来創造部長の答弁】

ハピラインふくいの主要駅には、月極駐車場のほかに、時間貸し駐車場も整備されているけれども、規模の小さい駅では、月極駐車場のみの場合もある。福井鉄道やえちぜん鉄道と同様、ハピラインふくいにおいてもパークアンドライド駐車場の充実は利用者の増加のために必要と考えており、既に丸岡駅や森田駅においては、パークアンドライド駐車場の改修を行い、駐車可能台数を増やしているところである。

今後も、ハピラインふくいが所有する遊休地の活用はもちろん、沿線の市町、それから民間企業等との協力も得ながら、地元のニーズに合ったパークアンドライド駐車場の整備を前向きに検討していきたい。

## 【福野の質問】

ふくい高校生県議会で出た意見の一つに大雪などの災害時の運休情報が福井鉄道のXでは情報提供がなされていないことが指摘された。若い世代はグーグル検索などのウェブ検索に限らず、XなどのSNS検索を多用している。利用者目線での観点から多くの高校生が利用するXを用いて運行・運休情報の発信をすべきではないか。ちなみに京福バスでは自社HPだけではなく公式Xでも運行情報を発信している。

地域鉄道も大雪時の運休情報などを自社HPのみならずXなどのSNSで発信すべきと考えるが、県としても利用者への幅広い情報発信の観点から各鉄道会社にSNSでの発信を求めてはどうか。

## 【未来創造部長の答弁】

福井鉄道とえちぜん鉄道においては、旧ツイッターに運行情情報を掲載していたが、Xへの移行に伴い、会員以外の閲覧ができなくなったことから、今年の初めに自社ホームページに運行情情報を掲載する方式に改めたところである。各鉄道会社では、改善の際にXへの掲載継続も検討していたけれども、早朝から深夜まで365日、運輸指令の担当者が少人数で対応する必要があるため、自社ホームページにのみ掲載することとした経緯がある。人員不足の中、運営する鉄道会社の事情を御理解いただければと思う。災害時の運休情報については、鉄道事業者のほか、県のホームページやSNSも活用し、広く県民に発信していきたいと考えている。

また、高校生県議会の際に、高校生の皆様から提案があった各駅に運行情報のホームページのQRコードを掲示する件については、大変よいアイデアだと考えており、現在、各鉄道事業者において、掲示の準備をしているところである。

## 【福野の質問】

足羽高校が外国人生徒に向けて行ったアンケートでは、言語面で分からることが多い、乗り場が分からない、運転士や従業員に外国人がいると助かるといった回答があった。昨今、運転士不足が叫ばれているが、外国人も含む採用活動を展開していくべきと思うし、外国人との共生社会を進めていくうえで外国人にとって使いやすく分かりやすい公共交通機関を目指していかなければならぬと思う。インバウンドが今後増えることを見越して、外国人を採用することにより外国人目線で公共交通機関を使いやすくするという期待もできるものと考える。

公共交通機関における運転士を含む外国人社員の採用について県からも積極的に働きかけるべきと考えるが県の考えは。また外国人に愛される公共交通機関を目指す上で今後どのような取り組みを考えているか。

## 【未来創造部長の答弁】

公共交通機関における外国人運転手の採用については、今年3月、国において特定技能制度の対象分野に自動車運送業、それから鉄道を追加することが決定されたところであり、受入開始の時期など、詳細な制度の中身は今後公表されると伺っている。県では、まずはバス運転手の外国人採用に向けて8月、県内の外国人採用サポート企業とバス事業者による勉強会を開催したところであり、今後、国の動きを注視しながら、外国人運転手の確保について検討していきたいと考えている。

また、外国人にとって利用しやすい公共交通機関となるよう、駅名表の多言語化やキャッシュレス決済の導入を進めている。このほか、公共交通機関の乗り方やマナーなどを案内する多言語のチラシを作成し、関係機関に配布をしている。今後も事業者とともに、外国人の利便性向上策を検討、実施していきたいと考えている。

# 視察・活動など～議会の外でも活動中です!!～



ふくい桜マラソンランニングフェスタに参加



ふるさと回帰センターにてU·Iターンについて視察①



ふるさと回帰センターにてU·Iターンについて視察②



土木警察常任委員会熊本視察①



土木警察常任委員会熊本視察②



六ヶ所村視察



福井県看護連盟通常総会に参加



北陸新幹線敦賀・新大阪間認可・着工早期実現決起大会に参加

「県政レポート」のバックナンバーは福野だいすけの公式サイト内から閲覧することができます。また右のQRコードより直接リンクもできます。是非ご覧ください！

